

令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702800		
法人名	有限会社 ケア・サービスさかえ		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	北九州市八幡西区木屋瀬二丁目7番8号		
自己評価作成日	令和6年7月10日	評価結果確定日	令和6年9月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和6年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年で開所21年目を迎えます。開所当時から、木屋瀬自治区会や商工会に加入し地域の活動に可能な限り参加している。気候の良い時や、お天気の日には外出支援・外気浴を積極的にしている。日頃から衛生管理や感染対策を徹底している為、ご利用者の方はコロナウイルスの感染者は出てません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「常に笑顔と真心で接し、心を通わせ、寄り添い安心できる生活づくりに努める」支援が日々展開し、理念の「地域の中の一世代として、穏やかで楽しく尊厳ある生活」を、「こころ便り」や運営推進会議で報告している。名前を穏やかに呼びかける対応で、ゆっくりと静かな時間が流れ、混ぜ合わせや盛り付けなどできることを担い、イベント料理やおやつ作りを楽しんでいる。大腿骨骨折後の「そっとしておいて」「痛い」などには、エアマットやクッションの活用し、好きな入浴や食べることを支援するなど、日々現状に即したケアを実践し、心疾患が急変し救急搬送した直後に逝去された入居者の家族からは、「ホームで楽しく過ごせて良かった」と謝辞があった。今年も法被姿で祇園山笠の巡行を玄関先で出迎え、地区敬老会や宿場まつり見学に出かける予定で、理念の具現化に邁進しているホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホームこころ**

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示している。	「常に笑顔と真心で接し、心を通わせ、寄り添い安心できる生活づくりに努める」支援が日々展開し、理念の「地域の中の一世代として穏やかで楽しく尊厳ある生活」を、「こころ便り」で全家族に発信している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の5類感染症移行後少しずつ増えている。	今年も法被姿で祇園山笠の巡行を玄関先で出迎え、11月開催の宿場まつり見学に出かける予定で、来訪された町内会長に地区敬老会の参加人数を伝えるなど、地域交流を継続している。昨年は、久々に介護実習の高校生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症の5類感染症移行後少しずつ増えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は順調に行えている。	全家族に会議開催を案内し、家族や民生委員などが参加している。入居者の暮らしぶりやイベントを写真掲載で報告している。コロナ感染の経緯報告に、参加者から慰労の言葉があった。会議録は事務室前で公表している。	関係部署職員の参加が少ないことを市担当者に報告し、理解や協力をお願いされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に、ホームの空室状況を伝え、地域で困っている方が居ないか等たずねている。	毎月市に報告している居室情報はホームページに掲載され、市主催の研修に参加している。新型コロナウイルス感染のクラスター発生を報告し、近々受ける実施指導関連書面を送付するなど、日頃から連携や協力関係に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回は、社外研修に参加している。 (オンライン) 身体拘束ゼロ委員会を組織している。身体拘束適正化検討委員会を、3ヶ月毎に実施している。離所の防止にチャイムを設置している。	定期的に身体拘束適正化委員会や研修会を開催し、身体拘束の具体的内容を周知している。止むを得ない身体拘束や言葉に依る拘束もなく、前傾姿勢で歩行が不安定な方には杖歩行を呼びかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内・外での研修を行い、今年度からは定期的に虐待防止委員会を開催している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市のパンフレットを掲示し必要に応じ活用し、支援出来るようにし、現在は1名の方が入居している。 (成年後見)	入居前から後見制度を活用している入居者があり、物品購入の際は管理者が後見人に連絡している。現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用を関係機関と協議予定の入居者はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。	全家族にこころ便りを定期的に配布し、入居者の暮らしぶりやイベントを報告している。殆どの家族が利用料の支払いに来所され、昨年のこころ祭りや運営推進会議には複数の家族の参加があるなど、運営に関する意見表出の機会や場を設けている。	運営に関する意見表出をさらに促すために、全家族に入居者の笑顔満載の暮らしぶりの写真を掲載した運営推進会議資料や会議内容の送付を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行なう社内ミーティングで、要望や提案を尋ね職員が意見しやすい職場環境に努めている。	毎月のミーティングは、個別のケアカンファレンスやBCP、身体拘束や食中毒に関する研修を実施し、運営に関する意見を促している。美味しい食事をと厨房担当者の要望で調味料を購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力に応じ業務を任せている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別は問わず募集しているが、思うように人材確保ができていないが、離職者はいない。	ハローワークを通じて求人しているが、新規入職者はなく、20代～60代の男女の職員が勤務し、認知症基礎研修、身体拘束や虐待防止などの研修をオンラインで受講している。入職数年を経て夜勤に携わる職員や、厨房で能力を発揮する職員もあり、夫々の能力や状況に応じて生き生きと勤務している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権週間に配布される市政たよりを活用し社内研修をした。	定期的な虐待防止委員会を開催し、人権研修や啓発活動に努めている。重要事項説明書で、契約書に明記した入居者の権利や解約項目の入居者及び家族のハラスメントを、事例で具体的に説明し、入居者及び職員の人権擁護に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、オンライン研修に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年は、ありませんでした。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限りご本人やご家族の方との面談を行い希望や要望等聴いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談時(電話・訪問)から詳しくお話を聴き、可能な限りご本人にも見学に来ていただいている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ他のサービスや施設の検討をすすめている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務を優先する事ないように常に心がけ一緒に過している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時はもちろん必要に応じて電話での現状報告(日常的な出来事や急変時等)し、ホームのアルバムを回覧したり年に3～4回はホーム便りを配布している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方や友人関係の方宛に本人が書いた手紙を定期的に出せるようにしている。	感染予防に配慮し、面会時はマスクの着用をお願いしているが、居室での面会は人数や時間の制限はなく、週1～2回定期的に来訪される家族もある。全家族宛ての年賀状や暑中見舞い送付支援は恒例となり、今夏はホーム宛てに返信もあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り柔軟に対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙を定期的を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人及びご家族の方に希望を聞き、出来る限り希望に応じられる様に取り組んでいる。	日々の関りから思いや意向を把握したいと、調査日もゆつくりと目線を合わせ入居者の話を傾聴する職員の姿があった。「何か気になることがあればいつでも連絡して欲しい」と記載された暑中見舞いの返信もあり、家族の篤い信頼が伺える。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方やご本人に生活歴等を聞き取り職員全員で把握するように個人ファイルに綴じている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に心がけ現状はどうなのか観察し、日々記録している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活歴等の情報を収集ご本人や、ご家族の意見や要望を取り入れ、介護計画を作成している。	大腿骨骨折後、「そっとしておいて」「痛い」など、触られることへの不安が強い入居者が安心できる生活づくりに努めている。、エアマットやクッションの活用、2人体制での入浴支援や好物パンや栄養補助食品などで好きな入浴や食べることを支援し、昼夜逆転はかかりつけ医に相談するなど、日々現状に即したケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人とのやりとりを行なった介護等を詳細に記録している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症がすすむにつれ、本人の力を発揮する機会は減っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は、全ての方が往診である。	全員がクリニック医師から月2回往診を受け、クリニックの看護師と緊急時の連絡体制を構築している。調査当日、歯科医の診療を受ける入居者もあった。常勤看護師が健康を管理し早期受診に繋げているが、今後は入院可能な医療機関との連携を検討している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録とは別に気づきノートを活用し個人の情報を伝達している。 常に看護師へ報告・連絡・相談し健康や安全に配慮したケアを行なっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けたマニュアルを作成		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な場合は病院への搬送が多いがご本人や家族の意向を入居時に確認している。	入居時や随時、重度化や終末期の対応指針を説明している。看取りの段階や場所について具体的に説明し、看取りの希望もある。昨今、心疾患の急変で救急搬送直後に逝去された入居者の家族から、「ホームで楽しく過ごせて良かった」と謝辞があった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時マニュアルを作成し見やすい場所に掲示してある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難マニュアルを作成し避難訓練を利用者と共に行っている。 地域防災訓練に参加している。	毎年2回、昼夜想定避難訓練を実施し、食料品や感染予防グッズなどを備蓄している。地域水害防災訓練に参加し、指定避難所の利用について説明を受けている。BCP研修を実施し、今夏の感染症クラスター発生時の経験やシュミレーションで、BCPの更新を図る予定である。	昨今の自然災害状況から、運営推進会議でBCPについて説明し、理解や協力を得るとともに、地域の福祉施設と災害時の連携協定を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい暮らしが継続出来る様に、常に配慮し行なっている。	名前を穏やかに呼びかける対応で、ゆっくりと静かな時間が流れている。理念である入居者が安心できる生活づくりに努めたいと、管理者自ら率先して穏やかな対応を実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との対話に基づき個人を第一に考え支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送れるように心がけているが比較的自由に過ごしている。 食事時間も臨機応変に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形状や自助具の工夫、食事時の姿勢等個人に合わせている。 密接を避ける為、少人数で食事をしている。	胃瘻造設者もあり、夫々の状況に応じた食事を用意し、声かけや見守り、介助で全員が完食している。中には1時間かけて介助する方もある。副食は業者委託であるが、希望の献立が叶い行事食もある。こころ便利には、混ぜ合わせや盛り付けなどできることを担い、イベント料理やおやつ作りを楽しむ入居者の写真が掲載されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に献立の作成をお願いし栄養バランスは十分である。食事量や水分量は1日を通じ記録を残している。その日の気分で食事(ご飯)が摂れない場合は、好みの食べ物を補食している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個々に応じた介助等をしながら行なっている。又歯磨きが困難な方には、スポンジを使用しイソジンウガイ薬で口腔内を消毒をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンをチェックしその都度トイレでの排泄を心がけている。	トイレでの排泄を基本として、トイレまでの移動や尿意や便意の有無、排泄の一連の行為のできる事やできない事を把握し、夫々の排泄パターンに応じて支援している。オムツなどの持ち込みもあり、経済的負担に配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、こまめに水分補給をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	2～3日のペースで入浴している。 毎日お風呂にお湯を入れるので、いつでも入浴は可能である。	広めの個浴槽やシャワーチェアが設置された浴室は清掃が行き届き、毎日入浴できる体制を整え、週2～3回の入浴を支援している。リクライニング車椅子の入居者も、2人体制で浴槽に浸かり入浴を楽しめるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転が無いように心がけて、体操や外気欲を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの処方された説明文を個人ファイル綴じ周知している。 また処方の変更があった場合は看護師から介護職員に伝達している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活での役割分担が認知症がすすみ出来なくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時折外出している。	外出の意義を理解し、車いすの入居者が多いが初詣やひな祭り、桜や向日葵、秋桜見学に出かけている。こころ便りにはその折の笑顔の写真が掲載されている。今年も2名の入居者が地区敬老会に参加予定で、出店やイベントで賑わう宿場まつりを楽しみにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、金銭を持参している方はいない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々手紙を送る程度。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	イベントの写真や利用者の作った壁画を飾っている。	玄関内外に管理者が丹精した盆栽や観葉植物が飾られ、職員の笑顔や和やかな挨拶が訪問者を出迎えてくれる。玄関横の事務室から居間や居室が見渡せ、清掃が行き届き整理整頓された居間は空気清浄器が設置され、食事や寛ぎの場となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い場所を確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自居室には自宅で使用していた馴染みのあるベッドや整理筆筒等を持ち込み生活しているが、最近では、荷物の搬入があると、入居を見合わせる方が増えた。	広く明るい居室は清掃が行き届き、エアマットの使用が多く、電動ベットや物入れが設置されている。テレビが持ち込まれぬいぐるみがさりげなく置かれ、写真や塗り絵が飾られた居室もあり、居心地良い設えとなっている。表札の掲示は、家族の意向を尊重している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで各所に手摺りを設置しトイレや居室には表札を付け出来る限り自立した生活を送れるようにしている。		